

# 平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

プログラム名	社会人のキャリアアップ教育プログラム		
事業名	幼児保育や幼児教育のスキルを高齢者支援、介護に活用するプログラム		
法人名	学校法人熊本YMCA学園		
学校名	専修学校熊本YMCA学院		
代表者	理事長 吉本貞一郎	担当者 連絡先	生涯学習課 吉田 美華
<p>1. 事業の概要</p> <p>わが国は急激な速さで超高齢社会へ向かっており、それに伴って増加する要介護者への対応、ならびに介護予防活動が急がれている。保育や幼児教育経験者の対人援助サービスのスキルやノウハウを高齢者介護に活用するため、幼児や子どもとは異なる高齢者の心理や特性を理解し自身のもつ対人援助技術アップを図る。特に高齢者が嫌う「子ども扱い」しない介護の実践を可能にする。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>「子ども扱い」しない介護の実践          基本介護技術(高齢者模擬体験)→30h、画像処理→12h、音楽とリズム→3h、集団活動6h、調理実習3h、介護予防→3h          計画通り実施し画像処理以外の時間については目的とするレベルに到達した。画像処理については時間が充分ではなかったため目的とするレベルへの到達はできなかった。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>グループワークを多様するなかで受講生は①人間関係調整力が高まった、②自己開示できるようになった。このことから協調性の向上と仲間を思いやることができるようになったといえる。</p> <p>③今後の活用</p> <p>「介護」は中高年が再就職する際、比較的受け入れられやすい領域である。保育や幼児教育経験者の保育技術や集団活動援助技術は高齢者へとアレンジしやすく、対人援助経験があることから職種 mismatches も少ない。今後の再就職支援に活用できる。</p> <p>④次年度以降における課題・展開</p> <p>保育や幼児教育の経験がない(当該プログラム対象外)の方からの問い合わせが多い→別プログラムの検討          「画像処理」の時間が足りない→カリキュラムの見直しを検討          保育士、幼稚園教諭以外の子ども支援者(放課後育成クラブ指導員、子どもスポーツスクール指導者、保育ママ、子ども英語塾講師など)が予想以上に多い。保育士や幼稚園教諭の有資格者で職業としては未経験者など対象者がわかりにくい。→対象者の条件を明確にする</p>			

### 3. 事業の実施に関する項目

#### ①履修証明書等

オリジナル履修証明書を発行  
ホームヘルパー2級修了証発行(別日程で実習関連カリキュラム修了を希望した者のみ)

#### ②カリキュラムの内容

ホームヘルパー2級養成カリキュラム(除施設実習)100時間  
福祉理念とケアサービスの意義(3)、サービス提供に基本視点(3)、老人福祉の制度とサービス(3)、障害者(児)福祉制度とサービス(3)、訪問介護サービス概論(3)、訪問介護印の職業倫理(2)、障害・疾病の理解(8)、高齢者・障害者(児)の家族の理解(3)、介護概論(3)、介護事例検討(4)、住宅・福祉用具に関する知識(4)、家事援助の方法(4)、相談援助とケア計画の方法(4)、医学の基礎知識(3)、リハビリテーション医療の基礎知識(2)、在宅看護の基礎知識Ⅰ(3)、共感的理解と基本的態度の形成(4)、基本介護技術(30)、訪問介護計画の作成と記録・報告の技術(5)、レクリエーション体験学習(3)  
その他30時間 調理実習(3)、集団活動(6)、音楽とリズム(3)、介護予防(3)、画像処理(12)、オリエンテーション(3)、総括(3)

特に就職に有利な内容→調理実習(3)、集団活動(6)、音楽とリズム(3)、介護予防(3)、画像処理(12)、オリエンテーション(3)、総括(3)

#### ③講座の実施

開講日:8月25日

修了日:10月6日

受講生の属性 保育士、幼稚園教諭(5)、放課後育成クラブ指導員(1)、子どもスポーツスクール指導員(2)、保育ママ(4)、障害児施設職員(1)、障害児教育の手伝い(1)、保育補助(2)、その他(2)

#### ④支援対象者(受講者)の状況

定員:20名

受講者:19名(女性17名、男性2名)

修了者:19名

修了者のうち就職希望者は10名、他の9名は家族介護の役立てるため当面就職は希望しない。  
就職希望者10名は就職した。